

ちょっとまった！

令和9年4月からの日比中・玉中の廃校、宇野中への統合

子どもの安全第一に、日比中の存続と計画の大幅見直しを

日比中の存続と計画の見直しを求める署名にご協力を

教育委員会が令和4年に策定した「玉野市立学校適正規模化計画(草案)」では、5つの統廃合プランが示されました。その中に「玉中を日比中学校に統合、小学校は玉小と玉原小、日比小と二日比小を統合」して、玉地区以西では中学校1校と小学校2校を存続する案がありました。

「この案なら、子どもの安全優先で、地域に学校が残る」と多くの方の賛成が得られるのではないのでしょうか。市と教育委員会の一方的な計画押しつけに、ハッキリと反対の声をあげましょう。

学校は地域防災と交流の拠点

小中学校が地域からなくなれば、若者も子どもたちも、その地域に住まなくなり、人口減少がすすみます。そのため、多くの自治体では、可能な限り地域に学校を残し、「地域と共にある、魅力ある学校づくり」に努力しています。ところが、柴田市政・教育委員会は、人口減少対策とは真逆の極端な「学校つぶし」に大ナタをふり、いっそうの地域衰退をまねこうとしています。

差し迫った日比中、玉中の廃校ストップ
教育委員会も日比中の存続、
玉以西に小学校2校を残すプランを示す

事故の危険性、 災害リスクも高まる

二日比小学区は通学バスで、日比小、玉小、玉原小学区は自転車での登下校です。来年から自転車交通違反に対し、交通反則通告制度(青切符)による取り締まりも始まるほど、自転車での交通事故の割合が増えている現状もあります

宇野中は、津波浸水の想定区域にあり、災害時に保護者の迎えも困難です。あえて津波浸水区域にある宇野中に学校統合し、新たに500人規模の大きな学校にするなど、子どもの安全を軽視する行政です。

市長も教育長も、「反対の多い地域では統廃合は進められない」と言われていました。ところが、地域説明会で市は、「八浜地区は反対が多いが、玉中、日比中学区の地域では、ほぼ賛成されたので進める」というのです。新聞報道では「多くの保護者は明確に反対しておらず、一定の理解を得られた」と議会答弁していますが、その根拠は不明瞭です。

反対の多い地域では
統廃合は進められない

「まだ、賛成しているわけではない」と、市に声をあげましょう。
何も言わなければ、賛成していることになるのです。
子どもたちは、何も言わせてもらえませんか。
私たちが声をあげ、子どもたちが安心して通える学校を地域に残させましょう。



学校統廃合を考える会

【事務局】玉野市玉原2-18-28 2025年
電話 080-1923-1565 (前川) 7月・8月号

裏面もご覧ください



地域に学校を残し、安全で魅力ある学校と地域づくりを

ルール違反の市・教育委員会

※統廃合計画が決まる前から、指定校変更を受付、学区外から宇野中へ30数名も変更。学校統廃合に向けて既成事実づくり。

※大切な地域説明会の案内状。回覧板が届いたのは多くのところで説明会が終わった後。住民軽視、上から目線の行政劣化は深刻です。

「玉野市総合計画」の人口ビジョンは、市政で最上位の計画であり、若者や子どもを増やし、人口減を抑制する諸施策の効果を加味した計画です。この計画に基づいて学校再編計画を策定する必要があります。ところが、総合計画の子どもの減少率は、この11年間で13%に対して、学校再編計画の児童生徒数の減少率は32%と2倍以上で、子どもの減少を600人も過大に見込んでいます。

柴田市政の「まちづくり計画」は、無為無策で、子どもを減らし続けるだけの計画でしょうか。



子どもの人口減少推移を
過大に見込む一総合計画を無視

地域に子どもが増え、1学年が2～3学級以上あれば良いのですが、少子化のもとで、全国的にも1学年1学級(単学級)の小規模校が増えています。

文部科学省は、「小規模校には教職員と児童生徒との人間的なふれあいや個別指導の面で教育上の利点も考えられるので、…なお小規模校として存置し充実するほうが好ましい場合もある…」と通達しています。小規模校では異学年間の交流や地域交流も強まり、社会性も育まれます。

学校経費の削減が主な目的

市と教育委員会は、「統廃合は子どものため」と何度もいいますが、「行革方針」にも明記されているように財政効率化・経費削減が主な理由です。子どもや保護者に負担を負わせ、事故・災害リスクを拡大する無理な統廃合の押しつけは許されません。防災上からも市西部に日比中を存続し、安全・安心の計画に見直させましょう。



小規模学校の良さ、文科省も評価

不登校の出現率

玉野市は極めて高い

玉野市では、小中学校の不登校の割合が全国・県平均よりも高く、早急な改善策が求められます。

統廃合で学校規模が大きくなれば、1学級の人数も多くなり、学区も今より数倍も広がります。これでは、一人ひとりの子供達へのきめ細かい対応は今以上に難しくなり、さらに不登校が増えることにもなりかねません。

子どもの声に丁寧に対応できる少人数学級、小規模校の良さを生かした、一人ひとりの子どもたちを大切にする教育が必要ではないでしょうか。



どの子にも行き届いた教育を
いじめ、不登校のない安全、安心な学校を

玉野市の不登校の割合と岡山県・全国との比較

不登校の出現率		小学校			中学校		
年度	玉野市	岡山県	全国		玉野市	岡山県	全国
2021年	2.21	1.17	1.30		5.85	3.88	5.00
2022年	2.25	1.44	1.70		7.53	4.48	5.98
2023年	3.07	1.79	2.14		8.51	4.92	6.71

児童生徒数の推移 【単位:人】

	2024年	2034年	減少数	減少率
学校再編計画	3,345	2,268	1,077	32%

年少人口(0～14歳)の推移

	2025年	2035年	減少数	減少率
玉野市総合計画 第3期人口ビジョン	5,083	4,422	661	13%

人口ビジョンの減少率を学校再編計画に適用すると
 $3,345人 \times 0.13 = 435人$ 再編計画の減少数 $1,077 - 435 = 642人$ の誤差